

① 水玉
② 下る
③ 一気

④ ひとで
⑤ どそく

②
① イ
② ア
③ ウ

④ ゆめ
⑤ アメリカ

⑥ おばあさん
【おばあさま「なども可」】

③
① イ
② キ
③ ア
④ カ
⑤ エ
⑥ オ

④
① ウ
② サケ

③
A エ
B イ

④
自分たちが食べる

⑤
I 2
II 1

配点	
①	各2点×5=10点
②~④	各5点×18=90点
<計>100点	

①の「水玉もよう」は小さな円形をちらしたもようのこと。「玉」の「」を正しい位置に打とう。②「下る」の反対は上るである。「下りる」とは送りながちがう。③の「一気に」は休まないで一度に、ひといきに、ということ。④「人手」は働き手、働く人のこと。「ひとて」とは読まない。⑤「土足」は外を歩くときはきもをはいたままの足のこと。

②

1 これは日本から外国にやって来たということではない。「パパに言われて」「わたし(きくの)」が「どきん」として、外国(アメリカ)にきていることは、もちろんわかっている。アメリカに来たことによって、自分が「外国人」(あつかい)になって、知らないところであればらく生活することに、あらためてびっくりしているのである。

2 あとに「どきん」とある。どきどきするのは「しんぞう」である。

3 場面をよく想像してほしい。きくのたちが「小さな村」の「ななちゃん」の家にやって来たところである。「家の前」で「お出むかえ」してくれた「ななちゃん」の「ジーンズにティーシャツ」というかっこうを見て、(若々しくて)「かっこいい!」と「きくの」が言ったのである。

4 「はじめてのひこうき」のなかで「きくの」が「見た」ものが答えになる。あとの「楽しかったー」や「目がさめたら」がヒントになる。「ひこうき」の「くじら」の「ものがたり」を読みながら寝てしまったおかげで、「くじら」の「ゆめ」を見たのである。

5 「小さな村」ではない。それは「レンタカー」でついたところである。「くじら」の「ゆめ」から「さめた」のは「ひこうき」のなか、つまり「アメリカ」についてたときである。

6 「ななちゃんは、パパのおかあさん」なので、「お」ではじまる「五字」のことばなら「おばあさん」しかない。

③

昔話や童話の内容に関する問題である。日ごろから本をどんどん読んでほしい。

① 「桃太郎」は、いぬ・さる・きびに「きび団子」をあたえて家来にした。

② 「シンデレラ」は、お城の舞踏会から急いで帰るときに「ガラスのくつ」の片方を落としてしまった。

③ 「浦島太郎」は、竜宮城へ行き、帰りに「玉手箱」をもらった。

④ 「白雪姫」は、悪いお姫様にたまされ、「毒リンゴ」を食べて気を失ったが、王子さまのキスで目覚めた。

⑤ 「一寸法師」は、鬼を退治して、「打ち出の小づち」のおかげで大きな体になることができた。

⑥ 「三びきの子ぶた」では、長男は「わらの家」、次男は「木の家」、末っ子は「レンガの家」を作った。

ウ「大きなつづら」は「舌切り雀」に、ク「魔法のじゅうたん」は「アラビアンナイト」などに出てくる。

④

1 「いたる」は場所や時刻などに達することだが、「いたるところ」だと「どこもかしこも」という意味になる。

2 もちろん「自然のまま産卵してふえた」「サケ」が「石狩川で二百万びき以上もとれた」のである。

3 A 一七五〇年には二百万びき以上もとれた ↓ ところが ↓ 一八〇〇年ごろから四十万びきぐらいしかとれなくなった。
B (前にはたくさんとれたころのことが、うしろにはあまりとれなくなつてからのことが書かれている)

B サケを川でたくさんとるようになった ↓ そのうえ ↓ また川にもどってきていない若いサケまで、沖合でとるようになった。
(サケのとりにすぎという、よくないことを並べている)

4 直前の「人口が少なかった」というのは「アイヌの人たち」のことである。「アイヌの人たち」は「サケ」を「神の魚」と思って「たいせつにし、自分たちが食べる量しかとりませんでした」とあった。いまの人たちが「サケを大量にとるようになったのは「サケ」を売ってもうけようと考えたからである。

5 I これは「ハマチ」ではなく「サケ」のことである。「ハマチ」は「大きくなるまでえさをやって育てる必要」があるのであった。

II 「千歳川」が「北海道」にあることを知らなくても、あとに「その後北海道ばかりでなく、東北地方など各地にもつぐられ」とあるので、「最初の本格的な人工ふ化場」が「北海道につぐられた」ことがわかる。